### 効トリック

# 

第245号 2012(平成24)年 1月30日

カトリック新潟教区広報委員会 ・発行 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通1-656 TEL 025-222-7457 FAX 025-222-7467



### 教区 100周年

あなた方は地の塩、世の光である

100年の歩みに感謝し 宣教する共同体をめざして

口葉の希望の光を掲げながら

年頭司牧書簡

新潟司教

タルチシオ



激しい喪失感や不安の また家や財産など、す や知人を失いました。 する家族を失い、友人 ました。多くの方が愛 国で私たちが生きる道 の影響も含めて、この べてを突然に奪われて を大きく変えてしまい しまったことにより

のお慶びを申し上げます。 新潟教区の皆様、主の降誕と新年 照らす光であった。光は暗闇の中で

「言の内に命があった。命は人間を

られます。

輝いている。暗闇は光を理解しな

かった」(ヨハネ福音一章四-五節)

希望の光を掲げて

仙台教区内の各地に大きな爪痕を残 しただけでなく、その後の原発事故 にしませんでした。二〇一一年三月 未曾有の災害に襲われるとは夢想だ いた私たちは、その直後にこの国が 一日に発生した東日本大震災は、 年前、主の降誕と新年を祝って

弟姉妹による連帯の絆のあかしに、

を呼びかけるメッセージも、是非ご

感じています。昨年十一月に日本カ 模索せざるを得ないのではないかと おられる方々が大勢お

これからも継続して取り組んでまい ジや寄付が寄せられてきました。兄 りましょう。また教皇様を始め世界 実践に心から敬意を表すると共に、 ちに連帯されている多くの皆さん、 り組んできました。実際に現地へ出 ジャパンを始め様々な団体や個人を 通じて、被災された方々の支援に取 ん、また被災された方々と祈りのう に献金などをしてくださった皆さ かけて行かれた皆さん、救援のため 人ひとりの兄弟姉妹に対する愛の ·の方々から、お見舞いのメッセー 平賀司教様を中心に、カリタス 日本のカトリック教会は仙台教区

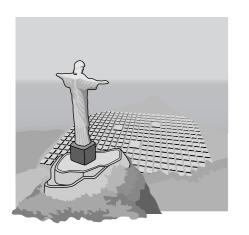
> 共に感謝いたしましょう。 うちからも希望を生み出す神の計ら からさしのべられる救援の手を通じ を刻み始めておられます。全国各地 いに信頼しながら、被災された方々 ている私たちは、苦しみと不条理の と復活に与り、新たないのちに生き います。洗礼によってキリストの死 て、被災地には新しい光も生まれて 被災された方々は今、新たな歴史

物であるいのちを最優先にすると ません。人間の限界をわきまえ、賜 き、私たちはこれまでの生活のあり の人間の責任の範囲でなければなり 手段として不可欠ですが、それは神 めによりふさわしい環境を生み出す 学の発展は、私たちが生きていくた のちを最優先にして人生を営んでい もって神の与えられた賜物であるい の力の限界を私たちに教え、まず 方を見直し、新たな生活のあり方を に与えられたいのちを生きることへ くように私たちを促しています。 福島の原子力発電所事故は、 菊地 功

治郎師が、初代司教に任ぜられまし は教区に昇格し、使徒ヨハネ伊藤庄

唱えることになっていますし、加え 作成され、皆さんと一緒にこの一年 のうちに深めるために特別の祈りが ています。教区全体の連帯感を祈り と定められ、ロゴマークも公表され れてきました。百周年のテーマは 記念するために実行委員会が組織さ あなた方は地の塩、世の光である」 ご存じのように百年という節目を すでに様々な行事が呼びかけら

と歩みを共にしたいと思います。



一読ください。

ける希望の光をしっかりと掲げて、 不安のときにあって、キリストにお ただいている私たち信仰者は、この 暗闇の中で輝くいのちの言葉をい

五十年後、一九六二年四月十六日に れたのが百年の始まりでした。その 牧区となり、ヨゼフ・ライネルス師 えます。一九一二年八月十三日に知 新潟教区百周年と「信仰年. (神言会員)が初代教区長に任ぜら 年を過ごしてまいりましょう。 今年、新潟教区は創立百周年を迎

深める機会にして頂ければと思いま す。近隣の小教区共同体との親交を にも十字架がリレーされてまいりま リストの主日に新潟教会を出発いた て十字架リレーも昨年の王であるキ しました。まもなく皆さんの小教区

は次のように呼びかけます。 の意見を聴取することも決定されて 教会議(シノドス)を招集し、「キ 仰年」とすることを決定されまし トの主日までのほぼ一年間を、「信 月十一日から翌年の王であるキリス 会議開催五十周年に当たる今年の十 います。信仰年開催の告示で教皇様 リスト教信仰を伝えるための新しい た。また同じく十月には世界代表司 福音宣教」をテーマにして司教たち ところで教皇様は第二バチカン公

を宣教にふさわしい者とし、わたし ということの公的側面を明らかに示 ることなくすべての人にのべ伝える うとする決断です。…聖霊降臨の日 神とともに立ち、神とともに生きよ 為と考えてはなりません。信仰は、 のあかしと行動を含むことを示しま さと勇気を与えてくれるのです\_ たちのあかしを強め、あかしに率直 します。聖霊の恵みは、わたしたち す。キリスト信者は信仰を私的な行 『信仰年開催の告示』10)。 教会は、信じ、自分の信仰を恐れ 「口で告白することは、信仰が公

のあかし、つまり「新しい福音宣教」 同体として現代社会に見合った福音 ひとりの信仰を深めるとともに、共 可能性について考えるようにと促 教皇様は教会全体に対して、一人

言うまでもなく福音宣教は、私た

ています。私たちの教会共同体が、

宣教する共同体を目指して」とされ

テーマは、「百年の歩みに感謝し、 呼びかけます。教区百周年のサブ に話し合い追求してくださるように ると共に、それぞれの現実における

「新しい福音宣教」の可能性を真摯

れまでの歴史を感謝のうちにふり返

岡の各地区においてこの一年間、こ

う。一人ひとりの信仰の再確認なし を共に生きる仲間と、例えば聖書を せん。教区百周年を迎えるにあたり ち一人ひとりに課せられた責務で 得ないからです。 ころに、あかしをする共同体もあり ず、共同体の信仰の深まりがないと に共同体の信仰の深まりはあり得 ることの核心を再確認いたしましょ ることによって、私たちが信じてい 読んだり、カテキズムを学んだりす としていることを考えるとき、信仰 ための取り組みを始めることを勧め 私はまず、あらためて信仰を深める 持っていなければ語ることはできま す。とはいえ、伝えるべきものを ます。私たちの信仰が共同体を基礎

退却や、現状維持の精神や、司牧計 とだけだという考え方の反対です 画はただこれまでしたことを行うこ しい福音宣教は、自己満足や、自己 あります。その上で同文書は、「新 めて実践しようとする教会の計画に 福音宣教は、教会の根本的使命、ア と指摘しています(『提題解説』10)。 つけられた呼び名」だという説明が イデンティティ、存在理由をあらた 新潟教区百周年にあたり私はさら シノドスの準備文書である提題解 (リネアメンタ)には、「新しい 秋田・山形・新発田・新潟・長

> ごしたいと思います。 としたら、主イエスの弟子としてど の意気込みを持って、この一年を過 動を新潟教区から立ち上げるくら 区百周年を期に、新しい福音宣教運 皆で考えていきたいと思います。教 のような福音宣教をしていくのか 今もし初めて現実の中へ派遣された

践するために、勇気と自信を持って 協力のうちに福音のあかしの業を実 若い世代の信徒には、世代を超えた 立ち上がってくださるよう呼びかけ その意味でも、教会の将来を担う

共同体は信徒と修道者と司祭が共に しょう。 会、皆で宣べ伝える教会を目指しま 学び合う教会、皆で分かち合う教 合う教会、皆で祈り合う教会、皆で 作り上げていくものです。皆で支え 私たちすべてが宣教者です。教会

# 教区優先課題の見直し

目を福音宣教の優先課題として掲げ てまいりました。 これまで新潟教区では、 次の三項

成熟した信仰者への脱皮を図る ワークを生み出す 同体を構築する 継続した信仰養成を充実させ 教区全体の情報共有のネット

世代や国籍を超えた交わりの共

題を見直していただくためです。 けて、それぞれの地区でこの優先課 することにいたしました。時間をか 四月ではなく、七月十六日に開催 今年は教区宣教司牧評議会を例年

> づいて、地区の意見を一つにまとめ ください。小教区での話し合いに基 り組むべき新たな優先課題を考えて 題をふり返り、その上で教区が今取 見が反映された優先課題を見いだし 出すために、一人でも多くの方の意 の提言も歓迎します。教区百周年に なところでは、地区としての話し合 にお願いいたします。もちろん可能 ることを、地区選出評議員と地区長 あたり福音宣教の新たな一歩を踏み いの機会も設けてください。教区へ 七月までに、まず小教区で優先課

### 終わりに

てまいりましょう。

です。司祭・修道者の召命にこたえ るように、さらなるお祈りをお願い る青年が私たちの共同体から誕生す いたします。 教区運営にとっての一番の懸案事 司祭志願者が全くいないこと

めていかなければなりません。今後 祭の生活を支えていく方向であらた 態を考えるとき、何らかの工夫をし 身からの寄付でまかなわれている実 とや、教区司祭給与の大半が司祭自 費を幼稚園園長給与に頼っているこ とに変わりはありません。とりわけ の、長期的には危機的状況であるこ いくつかの提言をいただきました。 区経済問題諮問委員会を設置して、 九月の司牧書簡で、教区の財政問題 くてはなりません。私は二〇〇五年 ながら教区として皆さんと一緒に司 教区で働く司祭の多くが、その生活 教区財政に多少の好転はあるもの について触れました。それ以降、 そして次には経済問題を指摘しな

> とも、教区の皆様のご理解とご協力 をお願いします

いたします。 ますように、皆様のお祈りをお願い ことができるように、また札幌教区 兼務という役割をふさわしく果たす 年目に入りました。私が二つの教区 め私の教区管理者としての兼任も三 司教座空位は続いています。そのた 司教が誕生しましたが、札幌教区の に新しい司教が一日も早く任命され 昨年は広島・高松・大分に新し

ることを楽しみにしています。 で、一人でも多くの方にお会いでき と八日の記念ミサ、新潟教区大会 は、日本再宣教百五十周年、日本二 念すべき年でもあります。十月七日 十六聖人列聖百五十周年を迎える記 しみ深い父である神の豊かな祝福を それでは、新しい年の初めにあた 私たちが百周年を祝う二〇一二年 皆様お一人おひとりの上に、慈

二〇一二年一月



## 2012(平成24)年1月30日

# 可祭叙階 菊地 一十五周年

功

司教

行われました。 れました。また、ミサ中、堅信式、 初聖体、十字架リレー出発式がとり 新潟教会を公式訪問され、司祭叙階 であるキリストの祭日、菊地司教は 二十五周年の感謝のミサをささげら 二〇一一年十一月二十日 <u>目</u> 王

覚えています。

司教様は二十五年を次のように振

り返っておられます。

### 支えられて二十五年」 タルチシオ 菊地 功

ことが出来ない。時間を積み重ねて いく毎に、その思いを深めていま られていなければこの道は全うする どれほど時が過ぎようとも、支え

させられました。感謝します。 さった。そう思います。昨年はお祝 ることを悟り、どうやって自分は歩 ば重ねるほど自分の限界が確かにあ み続けることができたのか不思議に 十五年でした。そして、齢を重ねれ んが、あっという間に過ぎ去った二 ろなことがあったのは事実ですが、 銀祝という節目の年でした。いろい ました。祈りの力をあらためて確信 いにたくさんの霊的花束をいただき れども、多くの祈りが支えてくだ 昨年、二〇一一年は私が司祭叙階 月並みなのかも知れませ ですから目には見えない

屋の南山教会で、故相馬信夫司教様 私は一九八六年三月十五日に名古

> 間の神学校生活の締めくくりとし み入れて以来、小神学生同士で祈り き、南山中学の入学感謝祭で足を踏 で神言会の小神学校に入学したと んが、南山教会の聖堂は中学一年生 から司祭に叙階していただきまし て、それだけで感動していたように に訪れたなじみの聖堂です。十五年 私は名古屋の出身ではありませ

と、正直心細い思いをしました。 でも、日本から遠いところへ来た 月には最初の任地となったアフリカ だけ。日本人司祭はアフリカに私一 コ会のブラザーが二人ケニアにいる のシスターはたくさんアフリカで働 ている限りでは、その当時、日本人 のガーナに到着しました。私が知っ 人だったと思います。そのことだけ いていたものの、男性はフランシス その年の六月には日本を離れ、八

感謝しています。

がに言いませんが、召命の恵みには

つもりです。楽しんでいるとはさす

の司教職を、一生懸命に生きている

いつの日にか。いまは与えられたこ

あった巡回教会を訪れながら、三千 間は助任司祭と一緒に、二十以上 最初の五年間は一人で、最後の二年 その後七年をそこで過ごしました。 きてきました。 人を超える信徒の方々と一緒に、 の小教区管理者に任命されました。 いう村にある「ルルドの聖母教会」 その後半年ほどの現地語研修を経 翌八七年六月に、オソンソンと

抜いてきたという思いが一番しま リアや腸チフスを何度も経験しなが 電気も水道もない村で、そしてマラ よりは「生きる」方が実感に近い。 もりでした。でも、やはり、 本当は「働いてきました」と書くつ 人近い洗礼があったり、ミサでは何 今「生きてきました」と書く前に でも苦しさの中にも、 やはり村の人たちと一緒に生き 毎年二百 働く

るまで、二十五年の半分は、修道会 の後は四十歳になった頃から今に至 との出会いがあったりしました。そ 時間もかけて歌い踊る村の人たちの の管区長や司教という、管理職のよ したり、今に続くカリタスジャパン 古屋の神学校での養成のお手伝いを かされてきたように思います。 姿を見ながら、自分もしっかりと生 九四年に日本に戻ってからは、

者のために、司祭の召命のためにお のお祈りをお願いすると共に、後継 祈りくださいますように。 さて次の五十年に向け、ますます



・イタリア公式巡礼旅行より フランス

### 新潟カトリック女性の会主催講演会

ろな思いをしましたが、それはまた

うな立場が続いてきました。いろい

### 『震災の現場で感じること』

南三陸町被災後8ヵ月の様子

二〇一一年十一月十三日 日 新 の支えになり、 【講演要旨】 ものであった。 宮城県沖の地震 祈りは行動を起こ

追って話され、最後は「祈りは活動 りました。支援活動の経緯を順を 画され、会場には七十名ほどが集ま 潟カトリック女性の会主催の講演会 おられる小松史郎神父で、現場の声 災復興支援活動の最前線で奉仕して センター長補佐として、東日本大震 事務局長ならびに仙台教区サポート が開催されました。講師は仙台教区 を聞きたいという会員の要望から企

す」としめくくられました。

だが今回は前回をはるかにしのぐ 震があるだろうといわれていた。 のときも、三十年後に同程度の地 前回一九七九年の宮城県沖地 続いて石巻、釜石、米川教会に設

立ち上げ、ボランティア受け入れ また仙台教区サポートセンターを 助言のもとに義捐金受付を開始、

ためのベースが、塩竈教会に、

いたま教区司教も来られて、その てくれた。菊地司教と谷大二・さ 新潟経由で遠くから大勢の人が来 て不在、長い揺れの後電気、水道、 当日、平賀司教は東京へ出かけ

震災当日およびその後の対応

けられた。ボランティアは本来、

十字架リレールート日程表			
月	日	十字架A	十字架B
11	20	新潟教会	新潟教会
	27		
12	4		花園教会
	11		
	18	三条教会	鳥屋野教会
	25		
1	1		
	8	表町教会	亀田教会
	15		
	22	青山教会	新津教会
	29	, II. II. A	took make took to
2	5	加茂教会	新発田教会
	12		
	19	.t.⇒ 11, 40. A	
	26	福住教会	V 10140. A
3	4	U +/L /\	米沢教会
	11	寺尾教会	巨 TF 4/7 V
	18	1-1-1/ ±4- /\	長井教会
1	25	村松教会	11.11公共人
4	1		山形教会
	8 15	   栃尾教会	新庄教会
	22	伽毛狄云	机压铁云
	29	直江津教会	酒田教会
5	6	巴山叶扒厶	ППЛУГ
	13	 佐渡教会	鶴岡教会
	20	KT NX 3 N M	
	27	高田教会	本莊教会
6	3		1 1-2.2.
	10		横手教会
	17		
	24		秋田教会
	25	見附教会	
7	1		
	8		
	15	白根教会	聖霊修道院
	22		保戸野修道院
	29		寺内修道院
8	5	妙高教会	聖体奉仕会
	12		土崎教会
	19	柏崎教会	
	26		能代教会
9	2	十日町教会	
	9		大館教会
	16	糸魚川教会	

業というのは無理であり、ベース 雪が残っており、そのような状況 自己完結が原則だが、三月はまだ 所として提供した。 を立ち上げ、ボランティアの宿泊 で寝袋とカップラーメンだけで作

# 震災は教会にとっての試し

三 く きに手をかすというキリスト者の ではないか。それが一旦このよう 前後というところが多い。世代と あかしを問われている。いつ来る る所以、大変な人がそばにいると なことが起きると教会が教会であ 会のための教会でしかなかったの てみれば三十年間、四十年間、教 れ、子の世代がいない。振り返っ しては高齢者と孫の世代で構成さ かわからない地震、その時に教会 仙台教区の協会も高齢者が多 主日のミサに来るのも二十人

日まで係った。

ガソリン不足が発生したため、

の司祭の安否確認も、翌週の火曜 ダ)からの電話だった。そのほか 任)の訃報は、宣教会本部(カナ ベック外国宣教会、塩竈教会主 た。A. ラシャペール神父(ケ からお見舞いのメールをいただい ると真っ先に、新潟教区事務局長 もわからなかった。電気が復旧す ガスが止まり、仙台教区内の状況

四

# 祈りは力になり行動を起こす

ベースもあった。 がんばりましょうと。こうした ンが生まれ、祈りも入れて、一日 る。若い人とのコミュニケーショ り、よい分かち合いになって ら、感じたことを話すことにな ているが、一緒に食事をしなが うにご飯と味噌汁だけの提供をし 側の教会も高齢化し長続きするよ ボランティアを受け入れる

# 被災地を訪ねてください

五

くる。話し肌で感じてください。 困っている」ということがみえて 「この人が、こういう状況で

三崎 恵子)

(新潟カトリック女性の会

のあかしはどうなるのか。

# 新潟教区創設百周年記念事行 司教座聖堂にて十字架リレー出発式!! いよいよスタート!

われた。 昨年十一月二十日(王であるキリ

の青年たちからリレー実施の要点や 説明され、二つの目的にまとめられ また百周年実行委員会ニュースM3 百周年の祈りの説明がありました。 ています。 十字架リレーの目的と願いが詳細に (二〇一一年十一月一日発行) では 出発に先立ち、十字架リレー部会

二 他教会への巡礼を兼ね、十字架 リレーにはできるだけ多くの信徒 識し、教区内の連携を深める。 教区の相互理解と交流を深める。 に参加してもらい、おのおのの小 教区百周年を目に見える形で意 本の十字架が祝別され、出発式が行 ストの祭日)司教座聖堂において二

かけています。 う、ともに祈りましょう。」と呼び の全ての教会が一つに結ばれますよ の十字架を、ともに仰ぎ、新潟教区 のいつくしみと愛のしるしであるこ 聖堂に戻ります。実行委員会は「神 る二〇一二年十月七日に再び司教座 を巡り、百周年の記念ミサが行われ

※十字架リレールートの日程は左記 のとおりです。



23

30 7

10



鹿角教会

100周年記念ミサ

別れ、教区内全ての小教区、修道院 祝別された二本の十字架は南北に を開催、教会は聖霊の

五周年と堅信のお祝会きました。ミサ後は会きました。ミサ後は会の秘蹟を授けていただの秘蹟を授けていただの

びの日を送りました。大きな恵に満たされ喜

秋田地区

# 地区

**区** 

り

# 大きな恵に満たされて



山形地区

新庄教会献堂一周年

私たちの教会を…という強い願いが叶い、昨年十月二十八日に菊地司教司式のもと山形県に六つ目地司教司式のもと山形県に六つ目の新庄教会が生まれました。

と書いておられます。 し、神に返さなければならない。」 このタラントンを何倍にも増や えられたタラントンです。私たち 本間神父は「新庄教会は神から与 た。一周年を迎えた新庄教会報に 信者間の絆をより強めていきまし 教会を持ちたい」という願いと うな年月が「いつかは自分たちの した。そうした長いジプシーのよ 転々と場所を替え、ミサを行いま 民館、旅館やホテルの会議室など から司祭が通い、中華料理店、公 までの道のりは長く険しいもので らの花嫁ということもあり、献堂 した。鶴岡、酒田そして山形教会 人ひとりは、神から与えられた

信者のほとんどがフィリピンかけとお祈りに心から感謝いたしまきました。多くの皆様からのご寄年の記念パーティを開くことがで

行われました。

当日は九時半ミサの

た十五名の信徒が堅信中、長い準備期間を経

の秋田教会公式訪問が

日(日) 菊地司教様

二〇一一年十二月十

(山形教会広報 小林 雅人) 恵に応え、より多くの実りを結べ 恵に応え、より多くの実りを結べ この船出したばかりの小さな新





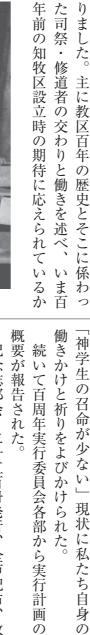
### 新発田地区・新潟地区

# 新発田地区信徒大会

会から約八十名の信徒が出席しまし おいて開催された。栃尾教会ほか六教 二〇一一年十一月六日新発田教会に

ひと時を過ごした。 会手作りのスープで昼食会となり、 迎えられた見附教会の野田實神父様への霊的花 新発田教会の佐藤允広神父の共同司式で行われ 教会の佐藤勤神父、三条教会の石黒晃泰神父、 東が贈られた。ミサ後聖堂内で記念写真を撮り た。各教会代表が共同祈願を唱え、また金祝を 発園と信者会館に別れ、持参のお昼とマリア 造りの教会で午前十一時より菊地司教、 午後は聖堂において菊地司教様による「新潟 記念ミサはレーモンド氏設計による木造レン 会話の弾む を問われた。また少子高齢化の社会ではあるが

教区百周年と今後の展望について」の講話があ 主に教区百年の歴史とそこに係わっ







祝賀会部会…東映ホテル四百名対応可。 約二

司教様、神父様と侍者たち

十字架リレー部会…百周年の祈りをとなえ 発、 る。二〇一一年十一月二十日王たるキリス トの日に二本の十字架がそれぞれ南北へ出 二〇一二年十月七日カテドラルに戻

以上、 滞りなく新発田地区信徒大会を終了し

新発田地区広報 森田 国昭



座が第六回を迎え、

妙高教会で開催されまし

Fa.

3

信徒使徒職その特性とは

『この世にあ

共通祭司職 ・役務的祭司職 使徒職には二つある

7

聖であること』

4

信仰と生活の一致によって福音が広まると

いうのはどういうことか

二〇一一年十一月三日、長岡地区信徒養成講

長岡地区

第六回信徒養成講:

巫

このたび第6回の養成講座では以下のことを

きく分け三つの使命を持っている。

王職(愛の支配を広げる)・預言職

を述べ伝える)・祭司職

(人と神を結ぶ)

使徒とは:キリストに遣わされた方で、

大

た。昨年は前日からの降雪で人数が少なかった

各教会代表

三名、

した。 のですが、今回は好天に恵まれ、五十三名 Br一名、Sr.一名)が参加しました。十月

に新しく着任された「続橋(つづきばし)神父」

ました。 と「斎藤ブラザー」が紹介され講話へと進みま この養成講座の発足当初は【教会暦】

するのか」また「喜んで参加するにはどうする スト」までを周期として典礼が行われます。こ のか」。そして、その中で「信徒は何をしなけ ること」。 すること」「二 キリストの名によって行われ の目的は「一 では、この典礼(ミサ)に「どのように参加 主の過ぎ越しと復活秘義を記念

れるのか分かりませんが

この講座がいつまで行わ

成―交わりの霊性と器の き生きとした感覚)の養

教会感覚(交わりは生

連の予定が終了しても、

教会暦は「待降節」で始まり「王であるキリ

を学び

(5)

信仰と生活が一つになるとはどういうこと

記念誌部会…二千五百冊発行、

全戸配布、

教

区の歴史と小教区の歴史をたどり福音宣教

に役立つ記念誌を計画中。

続いて百周年実行委員会各部から実行計画の

ればならないのか」と言うことで【信徒使徒職

様な勉強会がさらに続くこ と望む声もあります。この また初めから行ってほしい

とを願っています。

とは】を考えて来ました。

自己紹介させていただき

高齢者の仲間入りをさせて て、二〇一二年一月には後期

年間は、東京六本木の聖ヨゼフ修道院におりまでした。たまたま、この上越に来るまでの約六た。それからはずっと北海道の道北が主な任地 校を終わってから、フランシスコ会の志願者といただきます。生まれも育ちも北海道です。高 気のある寒さは苦手です。が大変だと思います。寒さは慣れていますが湿 して福岡にラテン語の勉強に行かされました。 ました。こちらは初めてです。雪が多いと聞い した。そして二〇一一年十月から高田、直江 そして一九六五年に司祭にさせていただきまし ております。しかも重たい雪とのことで、除雪 柏崎教会の協力司祭として赴任してまいり 任神父の 自己紹介

と、何となく毎日生きていくことです。 ないのが気になります。 いたことや好きなことをやって満足する、 病気という病気はしていませんが、

なんにでも興味がありますので。 になんだと聞かれますとこまってしまいます。 ていい気になるということでしょうか。具体的 趣味は何かといいます 根性の そし

さんに教えられ、 会は心配です。とにかく来たばかりですので皆で、高田のように三百人もの信者の皆さんの教舎の教会でばかり働かせていただきましたの教会での仕事は約六年ぶりですが、小さい田 ればよいと思っています。どうぞよろしくお願 るのか実はよく知りません。言われたことをす 思っております。協力司祭ってどんな役目があ いただきます。 いいたします。 皆さん方のためにお祈りさせて 助けられながら働きたいと

一〇一一年十一月二十八日記 和弘(「つづきばし」とよみます)

健康はどうかといいますと、まあまあでし

...6...